

## はしがき

本報告書は、平成 24 年 10 月に実施された国際会議「第二回日韓ダイアログ―日韓協力の発展のためのメディアの役割」の議事録および要旨・各種資料を集成したものです。

「変化の年・2012 年」という表現はもはや使い古された感もありますが、世界的に注目されたアメリカ大統領選挙、あるいは中国の新指導部発足とそれらがもたらす地域秩序の変化という観点と同等またはそれ以上に、日韓関係に生じたにわかな緊張がこの年を「代表する」ものとして私たちの記憶に残る結果となったことは、今日から振り返ればいかにも示唆的であったといえるでしょう。それは、もとより日韓関係が単純な二国間関係ではなく、それ自体が国際的・地域的な構造の上に成り立つものである以上、このような日韓関係の姿もある意味では 2012 年の世界的な「変化」の影響を受けたものであった、といえるためです。つまり、経済関係のつながりや両国文化のシームレスな伝播によって「皮膚感覚」としての相互理解が深化したはずの日韓関係がその実、両国の間の様々な「棘」がもたらすゆらぎ、そしてその土台である国際関係に生じたうねりによって大いに動揺するという現実があらためて浮き彫りとなったこと、これが「日韓両国にとっての 2012 年」の最大の示唆点ではなかっただろうか、と考えられるわけです。また、これは言い換えれば、力を合わせて対処すべき課題を数多く共有しながらもそこに正面から取り組めずにいる日韓両国、という構図を再確認させるものであったということにもなりましょう。そして、そうであればこそ日韓関係についての議論は腰を据えて行われるべきであり、特に相互イメージの形成に大きな影響をおよぼす両国メディアが安定的な枠組みのもとで定期的な対話の場を維持すべきである、との認識が日韓双方の主催者の間に共有され、困難な状況の中でも参加者のご賛同を得て予定通りに開催の運びとなったのが、まさに今回の会議であります。

また、そのような問題意識を担保するため、会議は「チャタムハウス・ルール」を前提に行われました。これはご承知の通り、発言者名について伏せつつ、その発言内容を最大限オリジナルを尊重して記録するもので、率直な議論を可能にするとともに「密室の議論」を回避できるように考案されたシステムです。このルールに基づいた報告書を送り出すことで、緊張関係の中での両国メディア関係者・有識者の対話の模様をご紹介します。同時に、日韓両国の相互理解というこの会議の目的のための下支えとなればと期待しております。このような問題意識が本報告書を手にとられたみなさまに届きましたならば、われわれにとってこれにまさる喜びはありません。

なお、「日韓ダイアログ」は参加者の率直な意見交換を念頭に置いて開催されたものであり、本報告書に収録された発表・討論の内容は記名の有無を問わず、すべて発言者の個人的見解に基づくものです。

末筆ながら、ご多忙のなか今次会議のためにご参集くださった参加者のみなさま、厳しい状況の中で会議の円滑な運営と報告書の作成のためにご尽力いただいた関係各位、そしてこれらすべての過程において多大なご支援を賜りました株式会社ロッテに厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上義二



## 目次

はしがき.....	i
目次.....	iii
プログラム.....	1
参加者リスト.....	3
<b>発表およびディスカッション 要旨.....</b>	<b>7</b>
▶ 開会辞.....	8
▶ セッション 1: 日韓間の主要イシューに対するメディア報道の傾向と日韓協力.....	8
▶ セッション 2: 金正恩の北朝鮮、どこへ向かうのか? .....	15
▶ 基調講演.....	23
▶ セッション 3: 日・中・韓の国内政治の状況と東アジアの将来 .....	23
▶ セッション 4: 総括討論.....	32
▶ 閉会辞.....	37
▶ セッション 5: ジャーナリストを志望する韓国大学生・大学院生たちとの対話 .....	38
<b>発表資料.....</b>	<b>43</b>
<b>議事録.....</b>	<b>75</b>
▶ 開会辞.....	76
▶ セッション 1: 日韓間の主要イシューに対するメディア報道の傾向と日韓協力 .....	77
▶ セッション 2: 金正恩の北朝鮮、どこへ向かうのか? .....	98
▶ 基調講演.....	124
▶ セッション 3: 日・中・韓の国内政治の状況と東アジアの将来 .....	126
▶ セッション 4: 総括討論.....	152
▶ 閉会辞.....	168
▶ セッション 5: ジャーナリストを志望する韓国大学生・大学院生たちとの対話 .....	170